



夏休み明けの学校生活の再開に向けて

長い休み明けは、生活リズム、服装、表情、態度など、様々な形で児童生徒の変化が表れやすい時期です。また、夏休み明けから不登校になる児童生徒が少なくない一方で、不登校傾向にあった児童生徒が始業日に登校するなど、節目の時期にはこれまでにない動きが表れやすくなります。

児童生徒の「変化」を、よりよい「変容」につないでいくために、教職員が、変化をどのように理解し、対応するかが大切になってきます。以下、夏休み明けにおける児童生徒への対応等に係る留意点を示しますので参考にしてください。

- ① 学校内外における集中的な見守り活動等を通して、児童生徒の様子がおかしいと思ったら、すぐに声を掛け、寄り添ってしっかり話を聞きましょう。
- ② 夏休みの宿題ができていない児童生徒を一方的に叱責するのではなく、これからどうするのかを確認しましょう。
- ③ 児童生徒のよい変容を見つけて、褒めることで成長を促しましょう。
- ④ 学級目標や学校行事の目標を再確認した上で、児童生徒同士で支え合い、高め合う集団づくりを目指しましょう。
- ⑤ 学校いじめ防止基本方針に基づき、児童生徒や学級の気になる変化は、その情報を教職員全員で共有し、組織で対応していきましょう。



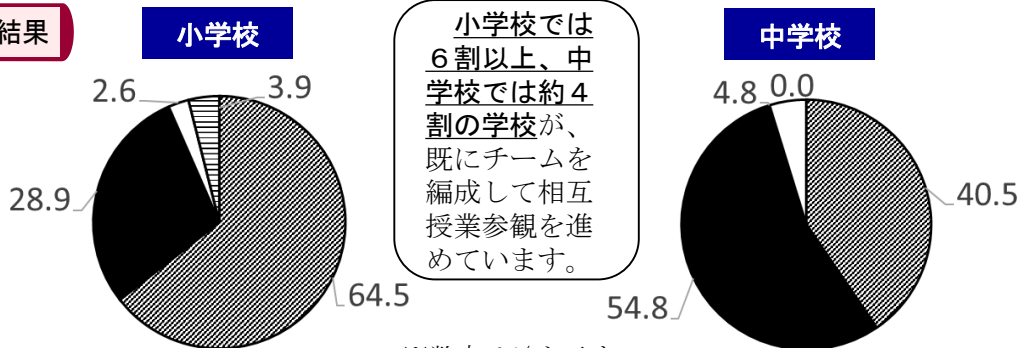
相互授業参観の取組状況について

本年5月末から6月中旬にかけて、中部教育事務所管内の全小・中学校を対象に「校内研究の推進に係るアンケート」を実施しました。御協力いただき、ありがとうございました。調査内容の中に、「相互授業参観の取組状況」についての設問がありました。その調査結果について、以下のとおりお知らせします。

設問内容

相互授業参観とは、校内でチームを編成して、OJTを意識しながら年間を通して継続的に実施するものです。なお、小規模校においては、全職員をチームとして捉えて回答いただきました。

調査結果



※数字は%を示す。

■編成済 ■今後予定 □計画なし □その他

本県の授業改善の4つのチェックポイントの中にも、「職員が相互に授業を気軽に参観し、評価し合う取組が行われているか」という項目が示されています。



次回以降の事務所便りで、相互授業参観に関して参考となる取組を行っている学校を紹介させていただきます。今後、各学校において、更なる充実した取組をお願いいたします。